

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671500357		
法人名	有限会社 シルバーケア		
事業所名	グループホーム春日苑		
所在地	徳島県板野郡松茂町広島字四番越11番5		
自己評価作成日	平成29年10月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旧吉野川沿いにある木造平屋建ての建物は、日中は施設することなく開放的な雰囲気、自宅に居るかのような感覚で生活をしていただけます。敷地内には畑や花壇があり、職員と共に季節の花や野菜を育てたり、収穫を楽しんでいただけます。また、苑内外での行事やイベントに参加していただいたり、建物内の掲示にも季節感を取り入れるなどして、季節の移り変わりを感じていただけるよう心掛けています。車椅子を使用されている方にも外出の機会を持っていただき、住み慣れた地域での繋がりを大切にしています。一人ひとりとの関わりを大切にし、利用者主体のケアが行えるよう職員全員で意識を統一し、その方らしい生活をおくっていただくための支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、木のぬくもりとともに職員もそのらしさを大切にした「笑顔」を絶やさないケアに努めている。事業所は、地元の長寿会に入会し運動会やイベントには積極的に参加をするなど、積極的な地域との交流に努めている。月1回、地域の住民で結成されたボランティア団体を受け入れ交流を深めたり、認知症サポーター養成講座や職場体験学習を開催したりして、地域に根差した活動を行っている。事業所の栄養士が中心となり、利用者の好みに合わせたメニューを作成し、季節の食材を織り込んだ心温まる楽しい食事の提供を全職員で実践している。全居室に防災頭巾を置いたり、外部からの救助に備えて車椅子マークを外に表示したりして防災の工夫を重ねている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その人らしく暮らし続けるために必要なことは何かを話し合い、理念として職員全員で共有して実践している。	事業所では、地域密着型サービスの意義や役割について全職員で話し合い、理念を再確認している。また、理念に基づき各ユニットごとの年間目標を作成している。職員は、理念や年間目標をミーティングで共有しつつ、より具体的なケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域内で行われるイベントや行事には積極的に参加している。また、長寿会に加入し、運動会やゲーム大会に参加するなどして地域の方と交流を行っている。	事業所は、地域の長寿会に入会し、運動会などの行事に利用者と職員は、積極的に参加している。月1回、地域のボランティアを受け入れ、利用者と交流を図っている。認知症サポーター養成講座を開催したり、職場体験学習を受け入れたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中で、認知症に関する相談窓口となれるよう行事等を通して呼びかけている。また、認知症サポーター養成講座の会場として事業所を利用していただき、民生委員など地域の方々との交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、町職員・民生委員・長寿会の方などに参加して頂いている。地域の情報をいただいたり、苑での取り組みの報告を行って意見をいただき、サービスの向上に繋げている。	2か月に一回、運営推進会議を開催している。他のグループホームの代表者の出席を得るなどして、相互に意見交換を行いながら、運営に活かしている。会議では、事業所の取り組みや防災等のテーマを用意し、意見が出しやすいように工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、現状の報告や意見交換を行っている。また、普段から運営に関する相談を行うなど、担当者と連携を図っている。	職員は、毎月、町の担当窓口を訪問するなどして事業所の取り組みや活動内容について相談をしている。事業所のチラシを役場の窓口に設置してもらうなど、協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の全体ミーティング及び担当者のミーティングで、身体拘束に関する話し合いや研修を行い、職員全体で意識の統一を図るとともに、拘束の無いケアに努めている。	事業所では、年間の研修計画の中に身体拘束をしないケアについての研修会を設けている。職員は、身体拘束の内容と弊害について理解に努め、研修やミーティングを通して、統一の意識をもって、拘束のないケアに取り組んでいる。防犯上、午後9時から午前5時まで施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修やミーティング等で職員全体の意識統一を図り、虐待防止や身体拘束を行わないケアについて常に意識をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修を行い、職員間で学ぶ機会を設けている。また関連する外部研修があれば職員が参加するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行い、理解を頂けるように努めている。利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制などについて、詳しく説明を行い同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑内にはご意見箱を設置し、誰でも要望を出せるようになっている。また、家族の来苑時には家族と積極的に関わり、意見交換をしやすい関係作りに努めている。	職員は、利用者や家族から意見が出やすいような雰囲気づくりに努めている。家族の来訪時やケアプラン作成・継続時にも積極的に話を聞いて、その要望をケアに反映している。玄関に意見箱も設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、常に職員とコミュニケーションをとり、職員から意見や提案があった場合は迅速に対応出来るよう努めている。	管理者は、職員ミーティングや個人面談時に職員の意見を聞く機会を設けている。週1回、代表者も事業所に来訪し、職員から直接話を聞く機会を設けている。職員が外部研修に参加することを支援しており、職員の気づきやアイデアをケアに反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に足を運んで職員とコミュニケーションをとっており、相談や提案をし易い雰囲気である。代表者は職員の様子に気を配り、その思いを理解すると共に、向上心を持てるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じ、外部研修の受講が出来るようになっている。研修報告は全体ミーティングや苑内研修などで行って情報を共有し、研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員の研修の受け入れを行っている。また、他施設の運営推進会議や見学実習に参加し、同業者と交流することで一緒に学び質の高いサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の際、本人・家族と向き合いながら思いや不安を共感し、傾聴することで、安心して頂けるよう良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と向き合って話し合えるよう、親しみやすい雰囲気作りに努めている。家族が抱えている不安や要望を十分に話し合うことで、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを十分に理解した上で、安心・納得していただけるよう、改善に向けた支援の提案、また必要ならば他のサービスの提案などの対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を介護される側の立場と捉えることなく、共に生活する者として常に寄り添い互いに助け合い、支え合う関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族あてに近況報告の手紙を送っている。また、来苑時には利用者の様子を報告したり、家族の思いを直接聞くことで信頼関係を築いていけるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りや催し、長寿会主催の運動会に参加して交流を深めたり、なじみの友人に訪問してもらおう事など、継続していけるよう心掛けている。	事業所では、家族の協力を得て、利用者の馴染みの関係の継続支援に努めている。地域の行事に参加したり、日頃の買い物で外出したりしている。ドライブ時に利用者の実家近くに行くなど、馴染みの人や場所との関係が途切れることのないよう留意している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの意思を尊重しながら、利用者同士の交流の場を作る工夫をしたり、食事やレクレーションの時間は職員も交えながら出来るだけ多くの会話ができるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			はな	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他施設に移る場合、本人や家族が安心して生活していただけるよう、これまでの生活習慣を詳しく情報提供している。またその他必要な支援があれば協力を行う。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で一人ひとりと丁寧に接しながら思いや希望をくみ取ることで、出来る限りその方の意向に沿えるよう努めている。困難な場合は家族から情報を頂いている。	職員は、日頃の利用者との関わりを通じて、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者には、家族から情報を聞くなどしてケアへ繋げている。利用者や家族から得た情報は、毎日のミーティングや申し送りノートで全職員が共有し、ケアの実践へとつなげている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	親しみやすい雰囲気作りを行い、本人との関わりの中でこれまでの暮らし方や習慣を把握する。また家族からも情報をいただくことでその人らしく生活を送って頂けるよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの性格や希望、生活ペースを把握し、その方の持っている力を活かしていただくことで、生きがいや役割を感じて頂けるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回、その方の心身の状態や思い、希望をふまえて担当者会議を行っている。モニタリングを繰り返し、現状に即した支援を行えるよう、利用者主体の介護計画の作成に取り組んでいる。	事業所は、利用者や家族の希望を聞き、利用者本位の介護計画を作成している。介護計画作成後もモニタリングを繰り返し、利用者や家族、職員で話し合いながら介護計画に反映している。利用者の現状に即して、随時の見直しにも対応している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに、日々の状態や変化などありのままの様子を記入し、全職員で情報共有を行っている。日誌の確認は毎日、業務開始前に必ず行うようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が安心して暮らせるように、その都度必要に応じたきめ細やかな対応が出来るよう努力している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や運営推進会議を通して、民生委員や地域包括支援センターなど地域との関係作りを行い、緊急時の対応に関する相談や、援助をしていただけるよう働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の有無を確認し、希望がない場合は事業所の協力医をかかりつけ医としている。また本人や家族から希望があった場合は、いつでも他の医療機関を受診することができるようになっている。	事業所では、利用者や家族から希望するかかりつけ医の受診を支援している。主治医や歯科医の訪問による受診もあり、協力医療機関との連携も密に行いながら、連絡体制を築いている。専門医の受診が必要な場合等は、家族の協力を得たうえで、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の協力病院の看護師に、利用者の状態の変化を密に報告し、相談を行うことで、早期に適切な受診や適切な治療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師と密に連絡を取り、入院によるダメージを最小限に抑えられるよう、早期退院に向けて支援をおこなっている。病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所のできることを本人・家族・医師を交えて十分に話し合い、支援確認書を作成して対応方針の共有を図っている。出来る事・リスク等について理解し、職員・家族・医師の連携体制でケアに取り組んでいる。	事業所では、契約時の段階で、重度化や終末期支援に関する説明を行い、利用者や家族の意向を確認している。利用者の身体状況の変化に応じて、利用者や家族の意向に沿うよう話し合うようになっている。医療機関と連携して支援に取り組む体制がある。重度化や看取り時の対応についての職員研修を行うなど、終末期の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や夜間の急変時にスムーズな対応が行えるようにマニュアルを作成し、周知徹底に努めている。消防署の協力を得てAEDや蘇生術の実施研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて様々な状況を想定し、年2回の避難訓練を行っている。運営推進会議などを利用して、地域の方々にも協力を呼び掛けている。	年2回、避難訓練を実施している。様々な災害を想定して対応マニュアルを作成している。利用者の居室では、防災ずきんを用意したり、車椅子の利用者と分かるマークを表示したりするなどして工夫している。防災上、夜間帯が課題と捉え、取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を大切にし、誇りやプライド・プライバシーに配慮することを心がけ、本人の気持ちに寄り添った言葉かけや対応を行っている。	利用者への言葉づかいや声かけなど、気づいたことは職員間で注意し合っている。また、入室時のノックや排泄時のプライバシー保護、入浴を含めた同性介護などに配慮しながら利用者の自尊心を傷つけないようにケアに努めている。個人情報やプライバシーへの配慮の研修会を行い、職員の意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で一人ひとりの力に合わせた声掛けや対応を心がけ、意思表示が困難な人に対しては表情やしぐさなどから読み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合や決め事に合わせるのではなく、気分や体調に配慮しながら一人ひとりの希望に沿った暮らし方が出来るよう支援している。ひとりで過ごす時間を持ちたい方、共有スペースで過ごしたい方、それぞれの意向を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしさを大切にし、好みに合わせて身だしなみを整えて頂けるよう、出張美容なども利用しながら支援している。行事やイベント・外出の際にはお化粧をし、気持ちが華やく工夫を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に応じて、一緒に食事の準備や配膳・後片付けを行っている。楽しく会話をしながら、食事を美味しく召し上がって頂けるように努めている。	事業所では、利用者と職員で会話を楽しみながら、食事の準備や後片付けを行っている。利用者は、一人ひとりのできる範囲で役割を担ってもらっている。季節に合わせて、干し柿づくりや野菜の栽培や収穫も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量を記録し、1日の摂取量を把握している。また、体調不良時など食事が摂れない場合は、好みに合わせて代用食や栄養補助ドリンクなどを用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じて、毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。また、本人・家族が希望される場合には、歯科医の往診による治療・口腔ケアを受けられるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、ひとりひとりの排泄パターンを把握することでトイレ誘導をスムーズに行えるようにしている。またおむつ使用者には不快感や皮膚疾患の原因とならないように留意している。	職員は、利用者の排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりに合わせたトイレ誘導や水分補給の支援を行っている。利用者の身体に負担がかからないような排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無・形状・量の排泄パターンを記録し、食事メニューや水分摂取量に気を配り、便秘予防に努めている。改善されない場合は早めに医師に相談を行い、ご本人の負担とならないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や希望により、気持ち良く入浴していただけるよう支援している。異性の職員が介助を行う場合は羞恥心への配慮を行ったり、声掛けや介助が過剰にならないようにするなど、利用者の心情や羞恥心にも配慮を行っている。	事業所では、利用者の希望や体調に応じた入浴を支援している。同性介助に対応したり、ゆず湯などを用いたりして、利用者が季節や癒しを感じるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や明るさに配慮し、利用者一人ひとりが快適に且つ安心して眠れるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬剤情報はファイルに保管し、全職員がいつでも確認を行えるようにしている。服薬確認は毎回行っている。症状の変化が見られる場合は、医師に報告し、適切な対応を行えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを見つけ、役割や楽しみを提供できるよう努めている。ご本人の生活歴などから嗜好や楽しみごとなどを知ることで、提供できることの範囲を広く持ち、その方らしい生活に繋げて行けるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って外出や買い物など、個別の外出支援を行っている。また、地域のお祭りや運動会などのイベントにも参加し、地域交流を行っている。	事業所では、利用者の希望に合わせた散歩や買い物など、日常的に外出を支援している。日頃から、近隣を散歩したり、地域交流のイベントや季節の行事に出かけたりして外出する機会も設けている。家族の協力を得て、食事に出かけたり、実家に帰ったりすることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			はな 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が希望される場合や、金銭を手元に置くことで安心される方については御家族とも相談し、意向に沿えるよう対応している。また職員と買い物に行ったり、移動販売を利用して好きなものを買っていただけるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話をかけられるようにしている。電話機の使用が困難な場合は職員が支援を行っている。同様に、手紙のやり取りもできるように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりを活かした温かな空間作りに努め、季節ごとの装飾や手作りの装飾などを取り入れ、少しでも居心地良く快適な生活が送れるよう工夫している。	事業所は、木のぬくもりを感じることができるような環境となっている。大きな窓があるホールには、暖かい日差しが入り、テラスは季節の移り変わりを眺めることができ、心地よく過ごすことのできる空間になっている。共用空間には、季節の楽しい行事写真や展覧会に出品した利用者の作品を掲示し、利用者や家族の話題となるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスや談話室などの空間をくつろげるように工夫し、気の合った利用者同士で過ごせるように支援している。また、おひとりでもゆったりとした気持ちで過ごして頂ける様、明るい空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりに馴染みのあるものを使用いただき、居心地の良い空間を作れるよう支援している。また、家具の配置にも気を配り、安全面にも配慮している。	利用者の居室には、こたつや家具などの馴染みの物や家族写真、趣味の作品などの思い出の品を持ち込んでもらっている。利用者本人が居心地良く過ごせるよう配置も工夫している。安全対策の一環として、全居室の出入口には防災頭巾を準備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで、木材を使用し、スロープや手すりを設置している。居室は8畳の個室でプライバシーは守られている。家具などは個人の状態に合ったものを選び、安全であることを最優先にしている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			つき 実践状況	実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その人らしく暮らし続けるために必要なことは何かを話し合い、理念として職員全員で共有して実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内で行われるイベントや行事には積極的に参加している。また、長寿会に加入し、運動会やゲーム大会に参加するなどして地域の方と交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中で、認知症に関する相談窓口となれるよう行事等を通して呼びかけている。また、認知症サポーター養成講座の会場として事業所を利用していただき、民生委員など地域の方々との交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、町職員・民生委員・長寿会の方などに参加して頂いている。地域の情報をいただいたり、苑での取り組みの報告を行って意見をいただき、サービスの向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、現状の報告や意見交換を行っている。また、普段から運営に関する相談を行うなど、担当者と連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の全体ミーティング及び担当者のミーティングで、身体拘束に関する話し合いや研修を行い、職員全体で意識の統一を図るとともに、拘束の無いケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修やミーティング等で職員全体の意識統一を図り、虐待防止や身体拘束を行わないケアについて常に意識をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			つき 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修を行い、職員間で学ぶ機会を設けている。また関連する外部研修があれば職員が参加するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明を行い、理解を頂けるように努めている。利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制などについて、詳しく説明を行い同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑内にはご意見箱を設置し、誰でも要望を出せるようになっている。また、家族の来苑時には家族と積極的に関わり、意見交換をしやすい関係作りに努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、常に職員とコミュニケーションをとり、職員から意見や提案があった場合は迅速に対応出来るよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に足を運んで職員とコミュニケーションをとっており、相談や提案をし易い雰囲気である。代表者は職員の様子に気を配り、その思いを理解すると共に、向上心を持てるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じ、外部研修の受講が出来るようになっている。研修報告は全体ミーティングや苑内研修などで行って情報を共有し、研修報告書は全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設職員の研修の受け入れを行っている。また、他施設の運営推進会議や見学実習に参加し、同業者と交流することで一緒に学び質の高いサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			つき 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の際、本人・家族と向き合いながら思いや不安を共感し、傾聴することで、安心して頂けるよう良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と向き合って話し合えるよう、親しみやすい雰囲気作りに努めている。家族が抱えている不安や要望を十分に話し合うことで、良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを十分に理解した上で、安心・納得していただけるよう、改善に向けた支援の提案、また必要ならば他のサービスの提案などの対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を介護される側の立場と捉えることなく、共に生活する者として常に寄り添い互いに助け合い、支え合う関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族あてに近況報告の手紙を送っている。また、来苑時には利用者の様子を報告したり、家族の思いを直接聞くことで信頼関係を築いていけるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りや催し、長寿会主催の運動会に参加して交流を深めたり、なじみの友人に訪問してもらう事など、継続していけるよう心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの意思を尊重しながら、利用者同士の交流の場を作る工夫をしたり、食事やレクレーションの時間は職員も交えながら出来るだけ多くの会話ができるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			つき 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院や他施設に移る場合、本人や家族が安心して生活していただけるよう、これまでの生活習慣を詳しく情報提供している。またその他必要な支援があれば協力を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で一人ひとりと丁寧に接しながら思いや希望をくみ取ることで、出来る限りその方の意向に沿えるよう努めている。困難な場合は家族から情報を頂いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との関わりの中でこれまでの暮らし方や習慣を把握し、家族からも情報をいただくことでその人らしく生活を送って頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活ペースを把握し、その方の持っている力を活かしていただくことで、生きがいや役割を感じて頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回、その方の心身の状態や思い、希望をふまえて担当者会議を行っている。モニタリングを繰り返し、現状に即した支援を行えるよう、利用者主体の介護計画の作成に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに、日々の状態や変化などありのままの様子を記入し、全職員で情報共有を行っている。日誌の確認は毎日、業務開始前に必ず行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族が安心して暮らせるように、その都度必要に応じたきめ細やかな対応が出来るよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			つき 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や運営推進会議を通して、民生委員や地域包括支援センターなど地域との関係作りを行い、緊急時の対応に関する相談や、援助をしていただけるよう働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の有無を確認し、希望がない場合は事業所の協力医をかかりつけ医としている。また本人や家族から希望があった場合は、いつでも他の医療機関を受診することができるようになっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の協力病院の看護師に、利用者の状態の変化を密に報告し、相談を行うことで、早期に適切な受診や適切な治療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師と密に連絡を取り、入院によるダメージを最小限に抑えられるよう、早期退院に向けて支援をおこなっている。病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできることを本人・家族・医師を交えて十分に話し合い、支援確認書を作成して対応方針の共有を図っている。出来る事・リスク等について理解し、職員・家族・医師の連携体制でケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や夜間の急変時にスムーズな対応が行えるようにマニュアルを作成し、周知徹底に努めている。消防署の協力を得てAEDや蘇生術の実施研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて様々な状況を想定し、年2回の避難訓練を行っている。運営推進会議などを利用し、地域の方々にも協力を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			つき 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を大切にし、誇りやプライド・プライバシーに配慮することを心がけ、本人の気持ちに寄り添った言葉かけや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で一人ひとりの力に合わせた声掛けや対応を心がけ、意思表示が困難な人に対しては表情やしぐさなどから読み取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合や決め事に合わせるのではなく、気分や体調に配慮しながら一人ひとりの希望に沿った暮らし方が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしさを大切にし、好みに合わせて身だしなみを整えて頂けるよう、出張美容なども利用しながら支援している。行事やイベント・外出の際にはお化粧をし、気持ちが華やぐ工夫を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に応じて、一緒に食事の準備や配膳・後片付けを行っている。楽しく会話をしながら、食事を美味しく召し上がって頂けるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量を記録し、1日の摂取量を把握している。また、体調不良時など食事が摂れない場合は、好みに合わせて代用食や栄養補助ドリンクなどを用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの力に応じて、毎食後口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。また、本人・家族が希望される場合には、歯科医の往診による治療・口腔ケアを受けられるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			つき 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、ひとりひとりの排泄パターンを把握することでトイレ誘導をスムーズに行えるようにしている。またおむつ使用者には不快感や皮膚疾患の原因とならないように留意している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無・形状・量の排泄パターンを記録し、食事メニューや水分摂取量に気を配り、便秘予防に努めている。改善されない場合は早めに医師に相談を行い、ご本人の負担とならないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や希望により、気持ち良く入浴していただけるよう支援している。異性の職員が介助を行う場など、利用者の心情や羞恥心にも配慮を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や明るさに配慮し、利用者一人ひとりが快適に且つ安心して眠れるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬剤情報はファイルに保管し、全職員がいつでも確認を行えるようにしている。服薬確認は毎回行っている。症状の変化が見られる場合は、医師に報告し、適切な対応を行えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを見つけ、役割や楽しみを提供できるよう努めている。ご本人の生活歴などから嗜好や楽しみごとなどを知ることで、提供できることの範囲を広く持ち、その方らしい生活に繋げて行けるよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って外食や買い物など、個別の外出支援を行っている。また、地域のお祭りや運動会などのイベントにも参加し、地域交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			つき 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が希望される場合や、金銭を手元に置くことで安心される方については御家族とも相談し、意向に沿えるよう対応している。また職員と買い物に行ったり、移動販売を利用して好きなものを買っていただけるよう支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話をかけられるようにしている。電話機の使用が困難な場合は職員が支援を行っている。同様に、手紙のやり取りもできるように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木のぬくもりを活かした温かな空間作りに努め、季節ごとの装飾や手作りの装飾などを取り入れ、少しでも居心地良く快適な生活が送れるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テラスや談話室などの空間をくつろげるように工夫し、気の合った利用者同士でゆったり過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりに馴染みのあるものを使用していただき、居心地の良い空間を作れるよう支援している。また、家具の配置にも気を配り、安全面にも配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで、木材を使用し、スロープや手すりを設置している。居室は8畳の個室でプライバシーは守られている。家具などは個人の状態に合ったものを選び、安全であることを最優先にしている。		